

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊重である。そのため、本校は「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。これを踏まえ、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して人権についての理解を深めることができれば、一人一人の人権尊重に対する意識を高めることができると考え、本主題を設定した。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 「いじめストップ！絆づくりプロジェクト」の実践

ア 「いじめ撲滅のためのスローガン」と「いじめ撲滅宣言」の作成

全クラスで「いじめをなくし、お互いの絆を深めるためにはどうすればよいか」について考え、話し合い活動を行った。また、スローガンは「日常生活で考えること」と「新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式」の2種類について作成し、教室後方に掲示した。



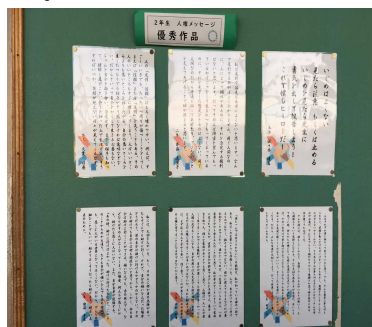
【教室内に掲示】

イ 人権メッセージの取組

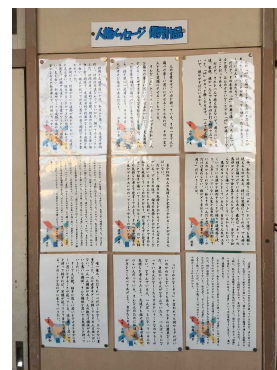
人権メッセージは、夏休みの課題として全校生徒が取り組んだ。各クラスで代表となる3点を選定し、各学年の廊下に掲示をした。



【2年生】



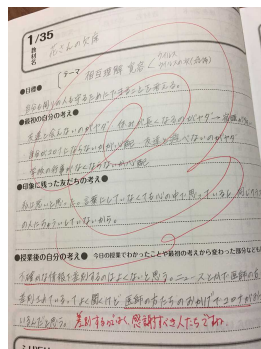
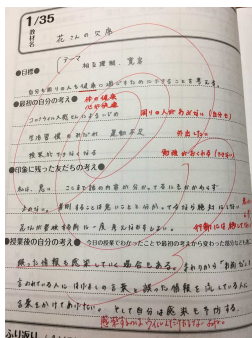
【3年生】



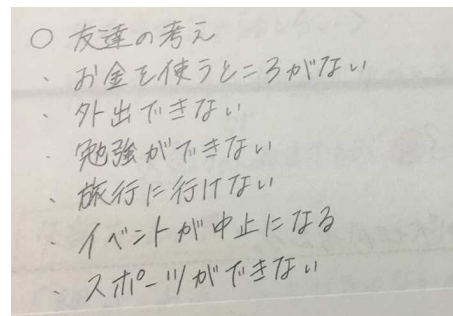
【1年生】

(2) 「コロナいじめをなくそう」道徳の授業実践

臨時休校明けと第2学期の最初の道徳の授業で、全クラスで新型コロナウイルスに関連した教材で授業を展開した。特に日本赤十字社が作成した資料「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を活用し、生徒一人一人が自分事として考えたり、自分も含め、身近な人が感染した時の行動について話合ったりすることができた。



【生徒の道徳ノート】



(3) 「地域交流」の実践

久慈中生として地域と連携したリサイクル活動やあいさつ運動を行うことにより、地域集団の一員として役割を果たし、自覚をもって行動することができるようになった。



【久慈小とのあいさつ運動】



【東小沢小とのあいさつ運動】

(4) 「善行賞」の実践

学校生活だけでなく、地域の一員として善い行いをした生徒に対して善行賞を贈り、表彰を行った。そのことで、これからの生活に自信と勇気を与えるとともに、広く生徒に善行の大切さを自覚させるきっかけになった。

例として、下校途中に高校生の定期券を拾った生徒が、その高校に定期券を届け、感謝される一件があった。善い行いが、自分自身の成長や社会貢献につながることを伝えていきたい。

【善行賞生徒を紹介した掲示コーナー】



3 成果

- 「いじめストップ！ 絆づくりプロジェクト」の活動を継続することで、一人一人の個性や違いを認め、尊重したり受容したりする意識が高まってきている。さらに、いじめという行為をみんなで見過ごさない・許さない雰囲気や困ったときは声を掛け合おう・助け合おうという行動も見売られるようになってきた。
- 人権メッセージやいじめ撲滅宣言を教室内や廊下に掲示したことや、人権・思いやりに関する道徳の授業を計画的に実施したことを通して、生徒の言動にも変化が見られてきた。悪ふざけやからかい半分のような、トラブルのもとになるやりとりではなく、相手の立場を考えた言葉かけや行為が、日常生活や授業の中でも増えてきた。
- あいさつ運動は、小中連携だけでなく、生徒会を中心とした運動も行っている。登校時に互いに言葉を交わすことで、異学年交流もできた。あいさつを通して、人とのつながりの大切さや集団の中で、相手を思いながらよりよく生きる優しさを伝えていきたい。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事など教育活動全体を通して、人権に対しての取組を充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。そのために、継続して取り組んでいる「いじめ撲滅活動」をさらに発展させ「絆づくりプロジェクト」として生徒会を中心に、積極的に行っていききたい。